

CLOSE UP!



よりよい医療人育成のための「卒後臨床研修(歯科)」

本院の歯科医師臨床研修プログラムの特徴
プロの技能とコミュニケーション力を実地で修得

高度な知識と技能が求められる医師・歯科医師は一朝一夕には育ちません。徳島大学病院ではより良い医療人の育成を目指して、大学卒業後も臨床研修(医科2年間、歯科1年間)に取り組んでいます。ここでは、歯科部門の卒後臨床研修についてご紹介します。

◎専任教員の拡充と施設環境整備でプロを育てる

卒後臨床研修を家づくりに例えると、基礎を仕上げた実際の建築にとりかかるための現場での実地訓練といったところでしょうか。学生時代の6年生のときにも、指導歯科医とともに診察を行いますが、それと卒後臨床研修が大きく違うのは、歯科医師免許があるかどうかということです。プロとしての態度、技能に磨きをかけるため、担当の指導歯科医が付いてより実践的な力を付けていきます。

大学病院としてもこの育成プログラムの充実にとくに力を注ぎ、1年間という限られた期間内ではあるものの、それを通じて研修歯科医師一人ひとりに治療計画の立案から経過観察まで指導する体制を整備する等、専任教員の拡充と施設環境整備に重点を置いています。

■説明は、河野文昭 卒後臨床研修センター副センター長(歯科担当)



◎患者さんに信頼されるコミュニケーション力

とくに丁寧に人材育成に力を入れるのは、みっちり基本を身につけたうえで、時代や社会の要請に応えられる質の高い歯科医療をめざしているからです。

より高度な技量を習得するため、最先端治療の研修セミナーを毎週木曜日に開催していますし、関係の深い歯科技工についても技工技術のレベルアップのために夜中まで取り組むこともあります。

医療や福祉の関係者との連携について学び、知識を得ることが歯科医としての将来のキャリア形成に役立つからです。

また、小さな子どもさんから高齢者の方まで、幅広い年齢層と多様な豊富な症例に接するなかで、歯科医として総合的な診断能力を習得できるのも大学病院ならではのことです。

もうひとつ大切なのが、患者さんの顔を間近で見ながら実際の治療に取り組むこと。歯科に限らず最良の治療ためには信頼関係が何よりも大切で、そのために患者さんの訴えに耳を傾け、要望をよく聞くコミュニケーション力を実践で培っているのです。